

「浅野文庫等施設（仮称）整備基本計画（案）」に対する市民意見募集結果（意見件数145件）

区分	番号	意見の概要	本市の考え方
第1章 計画策定の趣旨			
1-1 計画策定の背景と目的	1	・浅野文庫と中央図書館を切り離して整備する理由が分からない。利便性の低下につながるのではないかと。（3件）	・浅野文庫は、令和4年12月策定の「広島市立図書館再整備方針」において、広島文化・伝統を後世に伝えることのできる貴重な古文書等を保存・整理するための重要なものであることを鑑み、その保存環境の確保と活用について、中央図書館等の再整備とは切り離して検討することとしたところであり、本基本計画（案）は、この方針に基づき策定したものです。
1-2 計画策定プロセス	2	・近現代の文学に造詣の深い方からも意見を聞くべきではないかと。	・基本計画（案）の策定に当たっては、本市の歴史について知見を持つ学識経験者や古文書等の保存・管理について専門的な知識を有する有識者、近現代文学について知見をお持ちの方から意見を聴取しています。
第2章 現状と課題			
2-1 浅野文庫の概要	3	・浅野文庫は正確な点数とその内容を把握し明らかにするべきではないかと。（2件）	・浅野文庫は、和書、漢籍、絵図、文書、記録類など多様な資料で構成されています。中には1冊にまとめられたものの中に何種類も含む場合があり、そうした資料は「点数」で整理することが難しいことから、約1万点としているものです。
	4	・貴重な資料がどのように扱われてきたのか、またどのような課題があるのか明らかにされるべきである。	・各資料の活用状況及び課題については、「第2章 現状と課題」の中で記載しています。
	5	・浅野文庫は中央図書館にとって特別コレクションと位置付けているが、それをもっと一般に知ってもらふ必要があるのではないかと。	・「第2章 現状と課題」に記載したとおり、現図書館では、貴重資料の展示に適した環境がなく、また、専門的知見から調査・研究する体制が整っていなかったことから、資料が十分に活用されない状況が生じていたと考えています。この度、新図書館を整備し、専門の学芸員による資料の調査・研究を進め、環境の整った展示整備により広く公開することや、資料の更なるデジタル化等に取り組むことにより、御指摘の課題は解決できると考えています。
2-2 他の貴重な古文書等の概要		（御意見なし）	
2-3 広島文学資料の概要	6	・広島文学資料は、2007年に対象作家を21名に拡大とあるが、それ以降17年間1名も増えていないのは問題である。 ・文学資料の点数について、特に原爆文学については把握を明確にするべきである。	・現図書館は、収蔵スペースに限りがあり、対象作家を増やすことが困難でしたが、新図書館では、対象作家の拡大が可能となるよう収蔵スペースを拡大するとともに、調査・研究を行う学芸員等の体制の強化に取り組むこととしています。 ・広島文学資料については、整理中の資料があることから「約」と付記しています。なお、広島文学資料では、文学者に焦点を当てた収集・整理を行っているため、「原爆文学」というジャンルによる数量調査は行っていません。
第3章 基本方針			
（全体）	7	・文学館は浅野文庫の付け足しではなく、本来はそれぞれが個別の施設であり、全体としてではなく文学館として個別の方針が示されるべきである。	・新図書館は、近世以降を中心とした古文書等や広島ゆかりの文学者の資料、歴史・文学関係の専門書を一体的に収集し、近世から現代に至るまでの郷土の歴史・文化を体系的に伝える「郷土に関することを学び、調査・研究する専門図書館」として整備することとしています。 ・そうした中、新施設においては、収集対象作家を拡大し、資料を収集・保存するとともに、学芸員の体制も強化し、対象作家についての調査・研究を行い、その内容を展示等により発信していくこととしており、文学館に相当する機能を有する図書館になると考えています。
	8	・どうしても広島の文学も一緒にということであれば、複合施設ということでも階を分けて「文学館」というフロアにして区別をつけたほうが良いと思う。	
	9	・全体的に、「浅野文庫の付け足し」「浅野文庫とその他」という印象を受ける。「国際平和文化都市」として、浅野文庫以外の文学資料も、浅野文庫と同様に大切に扱っていただきたい。	
3-1 基本的な考え方	10	・「広島文学」については概念が狭過ぎる。「広島文学」の範囲を広くとらえなければ、せっかくの施設の魅力は半減する。例えば、頼山陽や井伏鱒二の名が見えないのはなぜか。 ・「原爆文学」の保全と活用についても、作者が広島市生まれかどうかにかかわらず、「原爆」を素材ないしモチーフとした文学資料、あるいはその他の記録をも蒐集・保全・活用することを目標とするべきである。	・「広島文学資料」の収集対象の作家は、「出身地又は活動の拠点が広島市とその周辺地域であるか、その業績が広島と深く関りがある著名な文学者」としていただきます。いただいた御意見は、今後、対象作家拡大を検討する際の参考とさせていただきます。

区分	番号	意見の概要	本市の考え方
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に至るまでの文学者を対象に加えるべきである。 ・対象作家21名に係るもので中央図書館以外で所蔵しているものもあり、これらの扱いも含めて検討が必要である。 ・対象作家21名の中には映画監督・脚本家の新藤兼人氏や若杉慧氏のように何度も映画化された文学者がおり、そのような文学者が今後も増えていくことも踏まえると、それらの文学者の全貌を捉えるには、映像作品まで総合的に見ていく必要があり、映像文化ライブラリー等の施設との積極的な連携が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新図書館においては、現状より広い収蔵スペースの確保と学芸員等の体制の強化を図ることにより、新資料の収集を促進するとともに、対象作家の拡大に取り組むよう考えています。 ・また、広島県の文学についての調査・研究、発信に際しては、映像文化ライブラリーはもとより、広島ゆかりの文学者に関する資料を所蔵・研究している市内外の博物館や研究機関等とも連携を図りたいと考えています。
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土にゆかりのある文学者やその作品の種類は多様で、小説を始め戯曲や詩、広義にはエッセイや評論集も文学作品に含まれるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島文学資料として収集する作品には、小説、戯曲、詩、エッセイなども含まれます。
3-2 新施設のあり方	13	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトに無理がある。広島の歴史は江戸時代からしかないのか。浅野文庫の所蔵は江戸時代からのものがほとんどで、広島に関係するものでそれ以前はほとんどない。近世からだけを見て郷土の歴史を学んだことになるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新図書館は、主として「広島」が成立した近世以降の資料や図書等を収集・活用することにより、郷土の歴史、文化、産業等の学びと文化の継承を支えることとしていますが、現図書館で保存している貴重資料の中には近世よりも前のものも含まれていることから、引き続き利用者等の求めに応じて、近世よりも前の歴史についての学習や調査・研究もすることができそうです。
	14	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館と浅野文庫は一緒の方が良い。古文書などは一般人が気軽に見るのが難しくても展示などを定期的にして興味を持ってもらい、またその事について、図書館にある本で調べるといった循環が一番便利である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新図書館では、浅野文庫を始めとした貴重資料を展示により紹介するとともに、市民等がそれらの資料や郷土、歴史に関する図書等を活用して学習や調査・研究も行えるよう、関連図書の収集と閲覧室の整備を行うこととしています。
3-3 新施設の位置付け	15	<ul style="list-style-type: none"> ・移転する中央図書館の郷土を知るコーナーに広島文学資料の保存・展示の機能を持たせるとのことだが、収蔵資料の配分や展示機能の役割分担について考え方や方針などが、中央図書館と新施設との関係が明確ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エールエールA館に再整備する中央図書館の「広島を知るエリア」では、郷土の歴史や一般的な図書、行政関係、被爆文献といった幅広い分野の図書等を置くとともに、広島ゆかりの文学者やその作品を広く周知するためデジタル技術なども活用した展示等を行うなど、まずは郷土のことや文学資料を知るための導入的な役割を担うこととしています。 ・一方で、新図書館では、中央図書館の「広島を知るエリア」で興味を持った人々が、さらに郷土の歴史・文化や文学に関する学びを深めることができるよう、より専門的に調査・研究するためのレファレンスサービスや現物資料等を活用した展示を行うことを考えています。
	16	<ul style="list-style-type: none"> ・新施設の位置付けについて、郷土資料は全て新施設に運ぶということか。エールエールA館の計画は、ワンフロアに「広島を知るエリア」を整備するとしていたが、エールエールA館は一般図書だけになるのか。エールエールA館とのすみ分けがとてもわかりにくい。 	
	17	<ul style="list-style-type: none"> ・エールエールA館に設置する予定の「広島を知る」エリアは廃止するのか、それとも新施設と重複展示するのか。 	
	18	<ul style="list-style-type: none"> ・市立中央図書館の「広島を知るエリア」と「新施設」の関係を明確にすべき。 	
	19	<ul style="list-style-type: none"> ・中央館について、郷土の館が中央館であれば、まんが図書館も中央館にすべきであり、何よりも中央館が3つもあることがおかしい。 	
	20	<ul style="list-style-type: none"> ・新施設の位置付けとして「広島市立図書館ネットワーク」の中にあるとの説明は後からとってつけたように見える。元々中央図書館が担ってきた大切な役割がバラバラになった上に、費用が増えていくのでは意味がない。 	
	21	<ul style="list-style-type: none"> ・「広島市立図書館ネットワーク」図において、「中央図書館」の名称が見当たらない。エールエールA館への移転が決められた中央図書館を軽視する姿勢が現れていると感じる。 	
	22	<ul style="list-style-type: none"> ・専門館にすることにより、一般書閲覧の「ついで見」の場ではないため本当に研究や調査をする市民以外に広い意味において「広島を知る」機会を奪うことになるのではないか。 	

区分	番号	意見の概要	本市の考え方
第4章 事業活動計画			
(1) 収集・保存事業	23	・地域資料として扱われるべき資料は、近年、図書館関係者で見直しの動きが出ており、とりわけ、社会的な見地で10年後、20年後の研究対象・材料になるものまで整理・保存していくことが必要との著書も多数になっている。これらについての検討も必要ではないか。	・市立図書館として収集すべき地域資料については、いただいた御意見や関係機関等との役割分担等についても考慮しながら、引き続き資料の選定・収集を進めていきます。
	24	・資料の収集について、購入、寄贈、寄託等、積極的に行う必要がある。	・新図書館では、既存資料に加え、近世以降の古文書等や広島ゆかりの文学者の新資料の収集に努め、その充実に取り組むこととしており、今後、関係機関等とも連携しながら情報収集を行っていきます。
(2) 調査・研究事業	25	・資料を分散させることは、調べ物をする人にとってはとても不便である。エールエールA館にある資料とこの新しい施設の資料とに分散されたら、調べたい人にとっては、両方行くことになるのか。	・エールエールA館に再整備する中央図書館の「広島を知るエリア」は、郷土のことや文学資料を知るための導的な役割を担う一方、新図書館は、さらに郷土の歴史・文化や文学に関する学びを深められるよう、専門的な調査・研究を支えるレファレンスサービスや現物資料等を活用した展示を行うこととしています。
	26	・字品の郷土資料館にも郷土の歴史に関わるものがあるが、連携もしくはすみ分けはどう考えているのか。	・郷土資料館は、市域の人々の暮らしに関わる歴史をテーマとし、近世以降の地場産業に関する資料等を展示している博物館であり、新図書館は近世以降を中心とした古文書等や広島ゆかりの文学者の資料などを収集・保存・活用する図書館として整備するものであり、今後、企画展示等において連携を検討していきたいと考えています。
(4) 教育普及・学習支援事業	27	・郷土資料館が行う小・中学生向けの郷土の歴史や伝統的な産業についての学習支援と新施設が取り組もうとする学習支援の違いは何か。	・郷土資料館は、市域の人々の暮らしに関わる歴史をテーマとし、近世以降の地場産業に関する資料等を展示している博物館であり、新図書館は、近世以降を中心とした古文書等や広島ゆかりの文学者の資料などを収集・保存・活用する図書館です。
	28	・小・中学校を中心とした子どもたちを利用対象と考えるという記述が複数あり、学校等との連携の項目もあるが、教育委員会がどのように関与するのか。また、新施設を図書館と位置付けるのであれば、子どもの読書の中核館であることも図書館との連携が必要だと思う。	・対象とする資料やテーマが異なることから、学習支援の内容にも違いが出てくると考えていますが、具体的な内容については、今後、教育委員会や郷土資料館とも連携しながら検討を行っていきます。
(5) 情報発信事業	29	・広島市の歴史は被爆から始まったわけではなく、遠い昔から一度も途切れることなく続いている。被爆体験が重過ぎるため、そこで一旦歴史が途絶えたかに誤解される向きがあるが、「浅野家文書」のようなものがデジタル化を経て国内外に活用される日が来るのは広島の文化について反省する好機になるかと思う。	・浅野文庫をはじめとする貴重資料のデジタル化及びホームページ上での公開については従前から取り組んできたところですが、新図書館の整備を契機にその取組を加速し、その活用体制をしっかりと整えていきます。
	30	・浅野文庫・広島文学資料のデジタル化の推進に当たっては、国会図書館のデジタルコレクションの各種サービスを参考にし、より利用しやすいサービスになるよう期待する。	・また、外国人利用者向けの情報発信を強化するため、ホームページやパンフレット等の多言語化についても検討していきます。
	31	・情報発信事業は、日本国内のみならず、海外発信も重要になる。	
(6) その他	32	・予約した本だけを受け取れるだけのコーナーは、周辺住民のごく一部にしか需要がなく不要である。	・予約受取サービスは、本市の市立図書館全館で実施しており、また、利用も多いことから、新図書館においても周辺住民や通勤・通学者、また本施設や周辺施設の利用者等の利便性向上のため実施したいと考えています。

区分	番号	意見の概要	本市の考え方
第5章 施設整備計画			
5-1 整備場所	33	・Cプランとなっている比治山案は街中で貴重な多目的広場となっている場を潰すことになるので、絶対にやめてほしい。	<p>・新図書館の整備場所については、多くの人が訪れやすい場所であるとともに、浅野家とゆかりの深い候補地を3か所選定し、利便性や回遊性等について比較検討した結果、市長公館敷地を選定しました。</p> <p>・また、同地は、「ひろしま都心活性化プラン」における「歴史・文化・スポーツ交流ゾーン」にあるとともに、「平和の都心回廊」づくりにおいて「文化の道」として位置付けられている広島駅から縮景園、広島城などを経て平和記念公園に至る道に接していることから、本市のまちづくりにも整合するものです。御意見をいただいたアクセス面については、今後の検討の参考にさせていただきます。</p> <p>・なお、整備費については、いずれの候補地においても新築整備となるため大きな差異はないと考えます。また、民間企業や個人から寄付を募ることや国の補助金の活用により、財源の確保にも努めてまいります。</p>
	34	・中央図書館跡地の活用が決まっていなかったのであれば、その一角に建てるという候補はなかったのか。	
	35	・民間駐車場、大型バス駐車場もありアクセスが良好であるとともに、広島城との親和性も高い、いまの場所が理想である。	
	36	・整備候補地の選定では、牛田の候補地は土砂災害危険区域に当たり、比治山は浅野家との関係が薄いなど、比較対象として不十分で上鞆町の候補地ありきと感ずる。	
	37	・場所的には縮景園に隣接して落ち着いた雰囲気がありふさわしい。駅から近いという利点もある。	
	38	・三つの候補地の中から、選ばれた市長公館敷地も浅野氏にゆかりのある土地であるので、よい選択と思う。	
	39	・浅野文庫と広島文学資料等が市長公館の敷地に建設されることには、少し安堵した。後世に残るように管理し、保存してもらいたい。	
	40	・正面の道は狭く、広島駅へ向かう道も両方通行な上、歩道が狭い。途中、雨風をしのぐ場所も少なくこれで広島駅からのアクセスが良いとは思えない。白島線も本線とつながっておらず乗換が面倒だ。西国街道が目印では分かりにくい。なんでも街歩きで良いと済ませないで、やるなら道の整備もセットなのではないか。	
	41	・ABC案それぞれの所要経費が記載されていないので、検討は不可である。 ・浅野文庫や古文書、広島文学資料の閲覧は利用者が限られるため利便性の検討は不要である。また、立地の良い市長公館敷地は民間に売却し、新図書館の建設費に充当した方が良く、整備地は「C:比治山公園内(広島市まんが図書館の隣地)」が良い。	
	42	・くまもと文学・歴史館(熊本県立図書館)は県立図書館の敷地内にあるため、新施設はなぜ図書館と同じ建物や隣接した敷地内に建てないのは却って残念さが出るばかりである。	
43	・整備予定地は、縮景園に隣接し、浅野長勲氏の晩年の居住地でもあり、文庫を建てるとすればふさわしいかもしれないが、それならば、図書館そのものを建てられないのか。		
5-2 整備計画の基本方針 (2) 外観	44	・縮景園や広島県立美術館に隣接しており、利便性と魅力のある文化ゾーン形成の観点から、施設の機能分担や景観的な連続性の確保など、縮景園や広島県立美術館と一体となった整備が望まれる。	・新図書館の整備においては、景観計画重点地区(縮景園周辺地区)やリバーフロント・シーフロント地区(リバーフロント地区)のエリアであることに留意し、近接する広島県立美術館や縮景園などで構成される景観と調和した外観となるよう留意します。
(5) 諸室の構成及び機能 ② 諸室の機能	45	・浅野文庫等施設にしろ、図書館にしろ有名建築家をお願いして少しでも市民が楽しめる施設をお願いする。	・いただいた御意見については、今後着手していく設計において参考にさせていただきます。市内外から多くの方々が訪れ、快適に御利用いただける施設となるよう検討を進めていきます。
	46	・浅野文庫と併設での文学館機能を持つ施設としては、展示や収蔵、講座等を行うスペースが狭いのではないかと。(8件)	

区分	番号	意見の概要	本市の考え方	
(6) 配置及び平面イメージ	47	・歴史を若い世代に繋いでいくのであれば、児童や生徒も入りやすい作りであることが必須である。若い世代の市民が気軽に、学校の団体でも安全にアクセスできて、もっと広く知ってもらうための施設作りが必要。	・「第5章 5-2 (6)配置及び平面イメージ」の3階平面図に記載している「ワークスペース」を使用する方向で検討しています。	
	48	・予約図書の受取返却等現行の区図書館と同様のサービスを行うに当たり、一般図書のワゴンやコンテナの保管場所は確保できるのか。		
	49	・資料を修理するためのスペースはあるのか。		
	50	・新たな収蔵施設整備による寄贈・寄託の活発化や文学資料の対象作家拡大等による資料の増加を受け入れるには収蔵スペースが狭い。発展性のある計画を立ててほしい。(5件)		・新図書館では、今後の資料増加を見込んだ収蔵スペースを確保することとしています。今後は、新図書館の設置目的や事業内容を踏まえた資料収集方針を定めた上で、計画的な収集に取り組んでいきます。
	51	・2階はセキュリティエリアということで基本立ち入りができないということか。	・2階は貴重資料の収蔵場所となるため、セキュリティラインから奥へは自由に立ち入ることはできません。	
	52	・奥行きがなく狭い印象を受ける。階段の幅や段数、エレベーターが何人乗りなのかを示して欲しい。	・いただいた御意見については、今後着手していく設計において参考にさせていただき、市内外から多くの方々を訪れ、快適に御利用いただける施設となるよう検討を進めていきます。	
	53	・利用者の動線が一方通行ではないのは安全面からも問題がある。	・本市では、障害者や高齢者などを含む全ての市民が安全かつ快適に公共施設を利用できるよう、「広島市公共施設福祉環境整備要綱」を制定し、施設の構造及び設備の整備に関する福祉基準を定めています。新図書館においても同要綱に基づきトイレなどの設備を整備していきます。	
	54	・高齢者の利用が予想されるため、多機能トイレは複数設置することが必要だと思う。		
	55	・予約本受け取りコーナーの位置がわかりにくい。(2件)		・「第5章 5-2 (6)配置及び平面イメージ」にセルフ式予約図書受取コーナーの位置を追加しました。
	56	・駐車場をなくして建物を大きくできないか。また駐車場を設置するとして、無料にすると縮景園や県立美術館利用者が駐車してしまうのではないか。		・市長公館敷地は公共交通の利便性の高い場所であり、また周辺に複数の民間駐車場が存在することから、駐車台数は必要最低限の整備とすることを考えています。
57	・6台分の駐車スペースが想定されているが、職員用の駐車スペースも必要であり大幅に不足すると思われる。地下駐車場を設けるなど工夫して駐車スペースを確保する必要がある。			
58	・福山市にある「ふくやま文学館」は20台分の駐車スペースがあるが、この施設は計画では6台分しかなくあまりにも狭すぎる。(2件)			
第6章 展示整備計画				
6-1 展示の基本方針	59	・展示の順序に違和感がある。時代の流れ順だが、古文書で近世の「歴史」「文化」を感じて、急に明治以降は「文学」のみ感じろ、というのは、意味がわからない。明治以降の「文化」の中の一部に「文学」があり、「文学」だけで「文化」を感じるというのはおかしい。	・新図書館は、近世以降の古文書や古書、新たなゆかりの文学者の自筆原稿等の現物資料を収集し、その充実に取り組むことで、近世から現代に至るまでの郷土の歴史・文化を体系的に伝えることを目指しています。 ・いただいた御意見については、今後、「第6章 展示整備計画」で示した方針等に基づき、具体的な展示内容の検討を進めていく際の参考とさせていただきます。	
6-2 企画展示の基本方針		(御意見なし)		
6-3 展示コーナーのゾーニングイメージ	60	・展示ゾーンの在り方として、浅野文庫と文学資料を同じスペースに並べて一体感を持たせた展示とするのは無理がある。		
	61	・展示スペースが現在よりも少し大きくなるだけで、しかも浅野文庫と半分なので実質的には狭くなる。 ・「企画展」コーナーでは大事な各個別作家の特別企画展など計画しようがない。展示コーナーのゾーニングは特に十分に検討すべきである。		
6-4 展示ストーリー	62	・展示ストーリーは、さらに現代文学史～未来への観点が必要である。 ・原爆文学の使命は特別である。		

区分	番号	意見の概要	本市の考え方
第7章 収蔵庫計画			
7-1	収蔵環境の整備方針	(御意見なし)	
7-2	収蔵庫の整備計画	(御意見なし)	
第8章 運営管理計画			
8-1	運営の基本方針	63 ・一般書を閲覧する館とは明らかに性質が違うが、市民はこの施設を区の図書館のように気軽に利用できるのか。	・新図書館では、展示や講座等の実施、学校や他施設との連携、情報発信等も積極的に行うこととしており、研究者だけではない幅広い市民等が利用し、広島歴史・文化への興味を深めることができる施設を目指します。
8-2	運営体制	64 ・学芸員や司書といった専門職員が契約により短期間で退職する、あるいは、職員全体が指定管理期間の満了ごとに入れ替わるのだとしたら、長期的な調査研究・保存修繕の立案や継続に支障が出るのではないかと。	・新図書館の運営方法は、指定管理者制度を活用します。また、組織体制については、館長、学芸員、司書、事務職員を配置し、「第8章 8-1 運営の基本方針」に掲げたとおり、利用者に満足感を与え、誰もが利用しやすく、本図書館の使命・役割を持続的に果たす運営の実現を図るよう考えています。 ・御意見をいただいた、具体的な組織体制や人材育成方策、各職員の業務内容、各図書館・関係機関職員等との連携等については、今後、検討を進めていきます。
		65 ・新施設の重要性に鑑みれば、歴史や文化・文学に高い見識を有する館長を置くとともに、高い専門性を有する複数名の学芸員の配置が不可欠と考える。 ・学芸員は、資料の収集・保全に努めるとともに、魅力的な展示やセミナーなどを企画開催し、さらには資料の調査研究を行い、印刷物（研究冊子）やインターネットを通じて広島の歴史と文化・文学を国内外に発信することが期待される。広島文学館が、原爆文学研究の拠点となるべきである。	
		66 ・資料を適切に保存し次世代へ引き継いでいくためにも、保存科学を専攻した資料保存の専門職の配置や資料の修理を行える人材の養成を行ってほしい。	
		67 ・児童・生徒がこのような資料に触れることで郷土の見方を変えることができるようにするためには、適切な援助ができる人材が配置されなければならない。図書館として当然に司書資格は必要としているだろうが、貴重資料の扱いには学芸員が、更には、映像との関係まで考えると「メディアミックス」的な視点まで持つ人材である必要がある。	
		68 ・専門の学芸員、司書が浅野文庫、広島文学それぞれに必要である。	
		69 ・浅野文庫・広島文学資料室を担当する学芸員の増員を図り、市民の問い合わせ等にタイムリーに対応できるようにしてほしい。他施設の学芸員とも交流し、広島の歴史・文化に関する専門知識をより一層共有できる組織運営をお願いする。	
		70 ・司書や学芸員などの人的投資が軽んじられないようにしてほしい。	
		71 ・職員の人数が示されていないが、各時代の資料に精通し、調査・研究の推進、関係機関との連携を進めるための学芸員が必要である。 ・館長は企画力に優れた選任が望ましい。 ・文学資料の翻訳や外国からの入館者も増えることを想定し、外国語が堪能な学芸員が望ましい。	
		72 ・新施設に専門性を持った司書や学芸員を配置するということが、同じ中央図書館なのに現代の事柄や書籍はエールエールA館、古い資料や書籍等該当する内容は新施設への回送となり、結果利用者をたらい回しにすることはないか。	
		73 ・配置する職員数や維持費も不明であり、それらを公表してほしい。	

区分	番号	意見の概要	本市の考え方
第9章 事業スケジュール及び概算事業費			
9-1 整備事業スケジュール (予定)		(御意見なし)	
9-2 概算事業費	74	・37億円もかけて工事をせねばならないのか非常に疑問である。既存の建物を耐震補強し、解体せざりノバージョンして活用できないか。	・新図書館は、「郷土に関することを学び、調査・研究する専門図書館」として整備するものであり既存資料に加え、新たな古文書等や広島ゆかりの文学者の資料等を収集するとともに、資料等の調査・研究の成果を展示等で公開することとしています。このため、文化庁が認定する「公開承認制度」に準拠した保存・展示環境を整えることとしており、既存施設を活用することは難しいと考えています。
	75	・新たに施設を建設すると維持費と人件費がかかるので、旧広島陸軍被服支廠を使うのはどうか。	・また、新図書館の事業目的を鑑みて、整備場所は、多くの人が訪れやすく浅野家とゆかりの深い場所であり、また、「ひろしま都心活性化プラン」の「歴史・文化・スポーツ交流ゾーン」や「文化の道」に位置する「市長公館敷地」を選定しました。
	76	・中央図書館を建て直して約123億(建築、仮施設)に対し、エールエールA館移転(取得、改築費用)+浅野文庫施設建設で約123億円で同額というは偶然なのか。	・何ら関連性はありません。
	77	・この施設に約37億円がかかるが、中央図書館の駅前移転費用が議会を通ったのは、現地建て替えより費用が安いからだったはずであり、これでは話が違うのではないか。	・中央図書館の再整備地については、令和4年3月の広島市議会での付帯決議に基づき、令和4年12月策定の「広島市立図書館再整備方針」に掲げた機能ごとに現在地とエールエールA館のいずれに優位性があるかを比較検討した結果、中央図書館としての機能をより効果的に発揮でき、広島市公共施設等総合管理計画の基本方針を踏まえた施設更新となるエールエールA館へ移転することとしたものです。
	78	・事業費に寄附を当てにするのは計画性のなさを象徴するものを感じる。	・多くの市民へ新図書館への愛着を持ってもらい、大切にしてもらいたいと考え、寄附を募ることとしたものです。
資料編			
(広島市の各計画)	79	・「再整備後の(中央)図書館は、読書を楽しめる場だけでなく、広島の歴史、文化、産業等を学べる場、平和への思いの共有、市民等の交流や憩いの場、学校等との図書館ネットワークの形成、市民との協働などを行うこととしており、多岐にわたる様々な機能を持つこととなります」とあるが、これらは、広島市立図書館がやってきたことであり、十分でなかったとすれば担当課の怠慢ではないか。	・中央図書館については、築49年が経過し、建物の老朽化や十分な蔵書空間が確保できないなど市民ニーズに十分に対応できない状況が発生していました。そのため、令和5年1月に策定した「広島市立中央図書館等再整備基本計画」に基づき、広島駅前のエールエールA館内に移転し、これまでの図書館としての機能・サービスに加え、多様化した市民のニーズに応えるための更なる機能・サービスの充実を図ることとしています。
(類似施設調査)	80	・図書館は敷地や周辺環境も大切であり、判断の参考となるよう敷地面積を記載して欲しい。	・類似施設調査は、新図書館の機能に着目して行ったものであり、各施設の敷地や周辺環境などの所与の固有の条件は、判断材料として活用することは困難であることから、調査していません。
その他			
(計画全体)	81	・広島市には「文学館」的な施設が無かったので、このような施設の計画が立ち上がったのはとても喜ばしい。	・新図書館は、浅野文庫資料や広島文学資料、その他の貴重な古文書等や郷土、歴史に関する図書等を活用した市民等の学びを支えるとともに、専門の学芸員による調査・研究を行い、その成果を展示等により紹介することを通じて市民等の郷土の理解や愛着を深めることができるよう「郷土に関することを学び、調査・研究する専門図書館」として整備していきます。 ・この度、皆様から寄せられた御意見を踏まえながら、御期待に応えられるような図書館を目指します。
	82	・計画に賛成する。ぜひ実現させてほしい。かねてより、文学資料館と自然博物館がないことを残念に思っていたのでその一つが実現されることは、広島の文化の前進になると期待する。	
	83	・金沢、鹿児島など歴史や文化のある都市にはよい文学館があるのに、広島にはなぜないのだろうと常々思っていたので、とても楽しみである。	
	84	・非常に良い計画だ。過去を振り返るという事は必要である。 ・資料をコンパクトにわかり易く配置してほしい。 ・交通の便も周辺環境も良く、土地の有効利用も図れる。図書館も近く完成が待ち遠しい。	

区分	番号	意見の概要	本市の考え方	
	85	・ 広島市の歴史・文化を伝える立派な施設となることを願っている。		
	86	・ 「浅野家文書」「広島文学資料」の保全と活用のために、貴重資料の保管庫の温度・湿度・害虫・塵埃などにかかる対策といったそれにふさわしい条件の整った一館の設立計画が実現に向けて検討されたのは、県民の一人として喜ばしい。		
	87	・ 浅野文庫等施設（仮称）整備基本計画（案）を読み、浅野文庫や広島文学資料の価値が改めてよくわかり、新施設の必要性を感じた。		
	88	・ 核戦争の危機の時代、広島市の歴史館・文学館、特に文学館は他都市とは違う特殊な使命がある。原爆文学の必要性・重要性が求められる。国際平和文化都市として、世界に恥ずかしくない、広島市の文化・伝統を未来に伝える優れた新施設となるよう願う。		
	89	・ 一貫した歴史を有する広島（市・県）の固有な「文書館（アルヒーフ）」が、ゆくゆくは生まれることを願っている。		
	90	・ 藩学校が起源の修道大学などの図書館での保存を依頼することもできるのではないかと。		・ 浅野文庫は本市図書館の原点であり、大切に引き継がれてきたものです。また、そのほかの貴重な古文書等も本市図書館へ寄贈された大切な資料であることから、今後も本市が責任を持って保管・活用し、後世に引き継いでいきたいと考えています。
	91	・ 新しい施設はどっちつかずの中途半端なものに感じる。浅野文庫やその他の貴重な古文書は博物館や大学図書館が管理し、広島文学資料は今まで通り図書館が管理するのが良いと思う。今ある資源を活かし、税金は大切に使ってほしい。		
	92	・ 財政圧迫を危惧している。県立図書館の改修などで一緒に入れてもらうことは出来ないのか。		
	93	・ 来場者はごくごく限られ、古文書のためだけに訪れるのは極一部のマニアだけである。現在整備中の広島城三の丸歴史館での展示や、老朽化した郷土資料館へのテコ入れも含めて検討した方がよいのではないかと。		
	(既存施設活用等)	94		・ 郷土資料館の中に浅野文庫を収蔵するならば、「郷土愛をはぐくむ」は相乗効果でよいかと思うし、建設費、維持費、人件費も抑えられるのではないかと。
95		・ 浅野文庫と地元文学資料を含めた「広島市歴史博物館」を基町付近に新しく建設し、多くの子供や市民、観光客が、広島市の歴史を振り返り、わが町に誇りを持つものにすべきだ。そして現行の「広島市郷土資料館」は資料不足、交通機関が不便、人気もないので統合すべきである。		
96		・ 既存の広島城や広島市郷土資料館で保存公開すれば 来館者が増える可能性があるのではないかと。		
97		・ 今回の移転の必要性が無い。現在広島市は財政的に危機に瀕しており財政4年計画においても収入不足が予定されることから設備投資は控えるとされている。新たに建物建設などもってのほかであり計画の撤回を求める。		
98		・ 縮景園の隣ならば、浅野文庫は観光客向けにして料金をとればよいのではないかと。県外からの方々にも広く広島市の文化を知っていただく、というほうがよいのではないかと。		
			・ 新図書館は、市民のみならず、広域都市圏や国内外からも多くの方々に御利用いただくことを目指して整備していきます。また、図書館法に基づく公立図書館として整備するため、入館料を徴収することはできません。	

区分	番号	意見の概要	本市の考え方
	99	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞では、「専門図書館」という名称案が出ていたが、浅野藩に関する古文書や原爆文学など、広島にまつわる文化財が收藏されるわけだから「ひろしま文学資料館」「広島の文学資料館」などが適切ではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた御意見については、今後施設名称を検討する際の参考とさせていただきます。
	100	<ul style="list-style-type: none"> ・新施設の名称として、例えば「ひろしまの歴史と文化を知る館 浅野文庫・広島文学館」などとすれば、浅野文庫の存在を強調できるだけでなく、「広島にも文学館ができた」ことを国内外にアピールできるのではないか。 	
	101	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針に関わることであり、早急に名称を決めるべきである。 ・名称案として、「ひろしま歴史・文学の杜」を総称とし、「浅野文庫・広島文学館」を個別名としてはどうか。 	
	102	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館」にこだわらず、どのような施設であるかが分かりやすいようにするためにも名称に「文学館」を入れるべきである。（2件） 	
(中央図書館移転関連)	103	<ul style="list-style-type: none"> ・新施設建設には多額の費用がかかり、中央図書館の現在地建替えとエールエールA館への比較検討の際には計画されていなかった。中央図書館のエールエールA館移転を再検討し、現在地ですべてが一体となった施設を建て替えるべきである。（20件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館等の再整備に当たっては、令和4年3月の広島市議会での付帯決議に基づく所定の手続きを経て、中央図書館及び映像文化ライブラリーの整備地をエールエールA館とする「広島市立中央図書館等再整備計画」を策定したところであり、現在、同計画に基づき基本・実施設計に取り組んでいます。 ・また、浅野文庫を始めとした貴重資料については、同計画において、保存環境の確保と活用について別途検討することとしており、「広島文学資料」についてもエールエールA館に設置する中央図書館内での専用コーナーの設置等の措置を講じたのち、一層の充実を図るとしています。そのため、「浅野文庫等施設（仮称）整備基本計画（案）」を検討・策定し、新たに「郷土に関することを学び、調査・研究する専門図書館」の設置を定めたものです。 ・その他、中央図書館の移転整備に関しいいただいた御意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。
	104	<ul style="list-style-type: none"> ・「虫菌害対策とセキュリティへの配慮」の知見は、7階に貴重資料を置くエールエールA館でも、上階には水廻りを設けないという形で生かしてほしい。 	
	105	<ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館等のエールエールA館への移転計画に比して、広島市がこの計画を大切に考えておられるであろうことが、内容だけでなく配布された（案）の上質な紙や印刷からも伝わる。 	
	106	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者間のヒアリングも大事だが多くの市民に候補地の選定や建設の有無などのアンケートなどを行ってから方向性を決める方が良いのではないか。 	
(その他)	107	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の中央図書館から、文学資料を一旦中央図書館（商業ビル）に移転し、さらに新施設に移転するというのは資料の保全の観点や経費の面から見ても得策ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広島文学資料については、自筆原稿や書簡類等は調湿キャビネットで、初版本などの図書や雑誌等は中性紙の保存箱等に入れた上で集密書架に保管していますが、温度や湿度の管理ができない環境のため、資料保全の観点から移転再整備後の中央図書館へ整備する貴重書庫へ一旦移すよう考えています。
	108	<ul style="list-style-type: none"> ・国文法違反も含まれる非常に読みにくい文章であり、よく推敲してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた御意見については、今後の参考にさせていただきます。
	109	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な資料を後世に残すためにも、職員にはマイクロカプセルの入っていない日用品を使うようにしてほしい。また、市民にもマイクロカプセルが本にくっつくことによる汚損について啓発してほしい。 ・新たな施設のトイレについては、香料が体調不良を誘発する体質の人でも、そして嗅覚の敏感な介助犬の為にも、安心して使えるよう、芳香剤は置かず、換気扇による換気がしっかりとできるようなトイレにしてほしい。 	